

はじめに…。

平成23（2011）年3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原発の過酷事故から、先月の3月で8年間の歳月が経ちました。

私は、3月23日（土）から25日（月）の2泊3日の日程で、福島県と宮城県の震災遺構や、いまだに「帰還困難区域」に指定されている福島第1原子力発電所近くの国道6号線沿いの町を、自家用車で訪ねてきました（初日は移動のみ）。

そこで感じた気持ちや考えたことなどを、撮影した画像と一緒に紹介します。

1日目（平成31年3月23日 土曜日）： 磐城平（いわきたいら）城跡（福島県いわき市）①

① JRいわき駅の様子



② 磐城平城本丸と丹後（たんご）沢公園



ここに、放射線量を計測する
モニタリングポストがありました。

1日目（平成31年3月23日 土曜日）： 磐城平城跡（丹後沢公園）（福島県いわき市）②

①



この放射線量の数値 **0.112マイクロシーベルト** が、
どのようなレベルなのか？

②



2日目（平成31年3月24日 日曜日）： 東京電力廃炉資料館（福島県双葉郡富岡町）①-1

線量の単位

各臓器・組織における吸収線量:Gy (グレイ)

放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりにどれくらいのエネルギーを受けたのかを表す物理的な量。

実効線量:mSv (ミリシーベルト)

臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。

各部位に均等に、ガンマ線1Gyの吸収線量を全身に受けた場合、実効線量で1000mSvに相当する。

m(ミリ)は1,000分の1を表します。μ(マイクロ)は1,000,000分の1を表します。
従って、1Sv=1,000mSv=1,000,000μSvとなります。

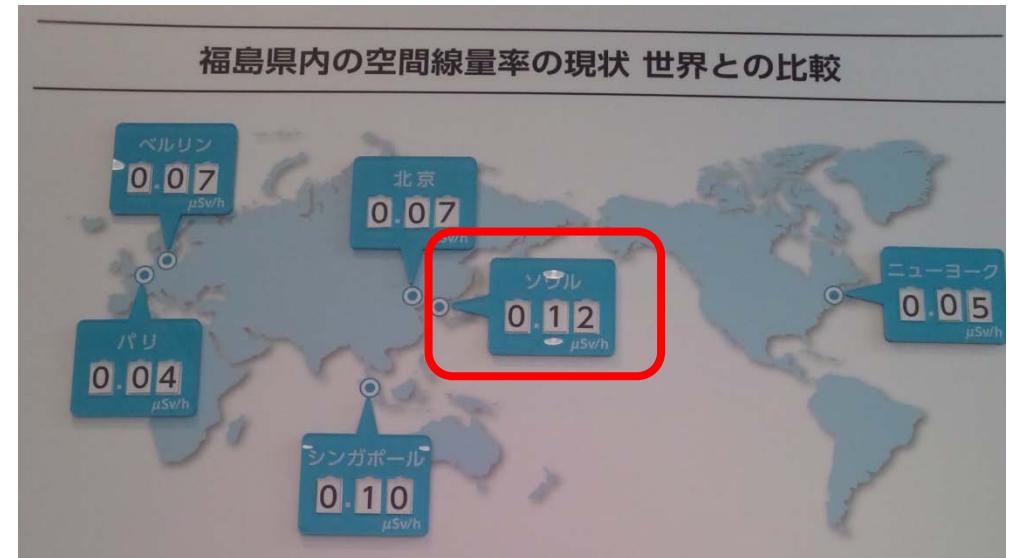
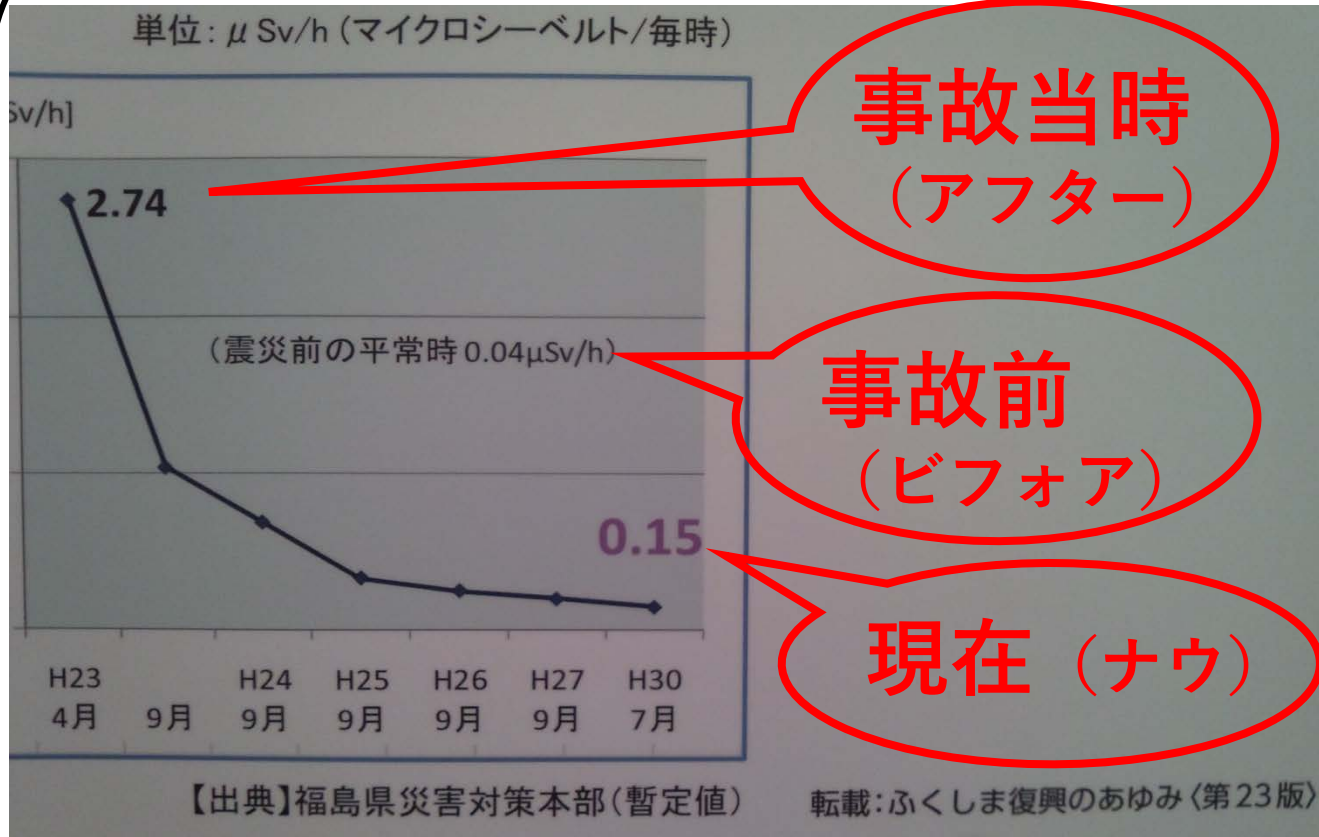
日本国政府による一般の人の被曝線量の限度（除染目標）は、

「年間1ミリシーベルト（mSv）。
地上1メートルの高さの空間線量に換算すれば、毎時**0.23マイクロシーベルト**（μSv）以下」。

さて、1日目に訪ねた、いわき市の公園のモニタリングポストの放射線量に戻ると、「毎時**0.11マイクロシーベルト**（μSv）」。

→次のページに、**原発事故の「ビフォア・アフター・ナウ」**（福島市の平均）

2日目（平成31年3月24日 日曜日）： 東京電力廃炉資料館（福島県双葉郡富岡町）①-2



空間線量率を外国の主要都市と比べてみると…。

たとえば、韓国の首都ソウルでは「毎時 **0.12** マイクロシーベルト (μSv)」。

2日目（平成31年3月24日 日曜日）： 東京電力廃炉資料館（福島県双葉郡富岡町）②

①



② 廃炉資料館の外観
（一般社団法人 日本原子力産業協会HPより）

廃炉資料館は、富岡町の市街地で国道6号線沿いであり、**震災以前は原発のPR館（「エネルギー館」の名称）として使用されていた**もの。

「反省」と「教訓」の2文字が、あちこちのヴィジュアル展示（解説ビデオの台詞やテロップ）に見られ、係員の方がたくさんいて、その案内や説明も、すごく丁寧だった。しかし…。

2日目（平成31年 3月24日 日曜日）： 東京電力廃炉資料館（福島県双葉郡富岡町）③

①：東京電力の「反省と教訓」

[反省と教訓]

巨大な津波を予想することが困難であったという理由で、福島原子力事故の原因を天災として片づけてはならず、人智を尽くした事前の備えによって防ぐべき事故を防げなかった。

②：展示されていた**スリーマイル島原発（米国）**

（1979年に過酷事故）の写真
→今年、2019年に閉鎖予定

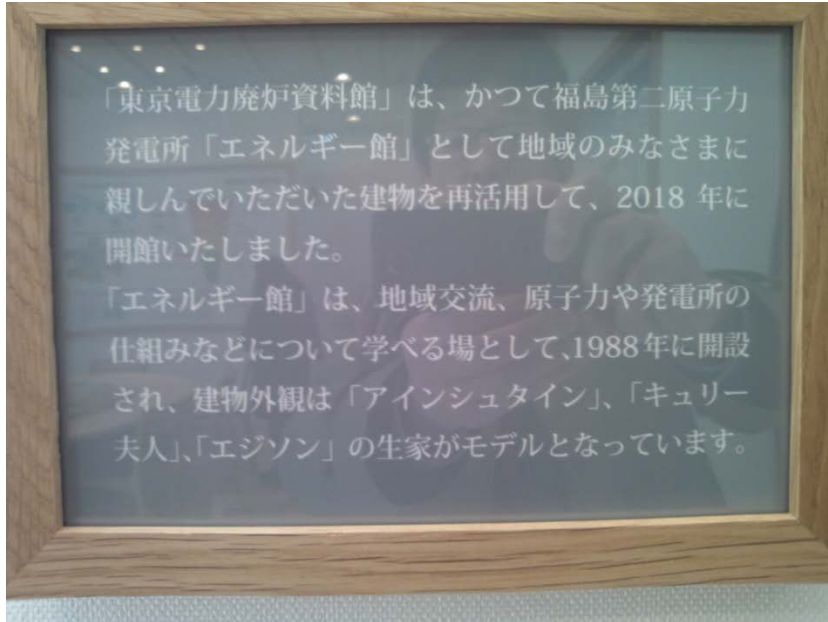
③：同じく**チェルノブイリ原発（旧ソ連）**

（1985年に過酷事故）の写真
→現在の閉じ込め構造物の様子



2日目（平成31年 3月24日 日曜日）： 東京電力廃炉資料館（福島県双葉郡富岡町）④

①



③



②



情報スペースに展示されていた、
「1988年に開設され、建物外観はアインシュタイン、キュリー夫人、エジソンの生家がモデルとなっています」の看板や、

かつて館内（**何かの体験コーナー？**）で遊んでいる子ども達の**写真**を見て、複雑な気持ちになった。

2日目（平成31年3月24日 日曜日）： JR富岡駅（福島県双葉郡富岡町）①

①



②

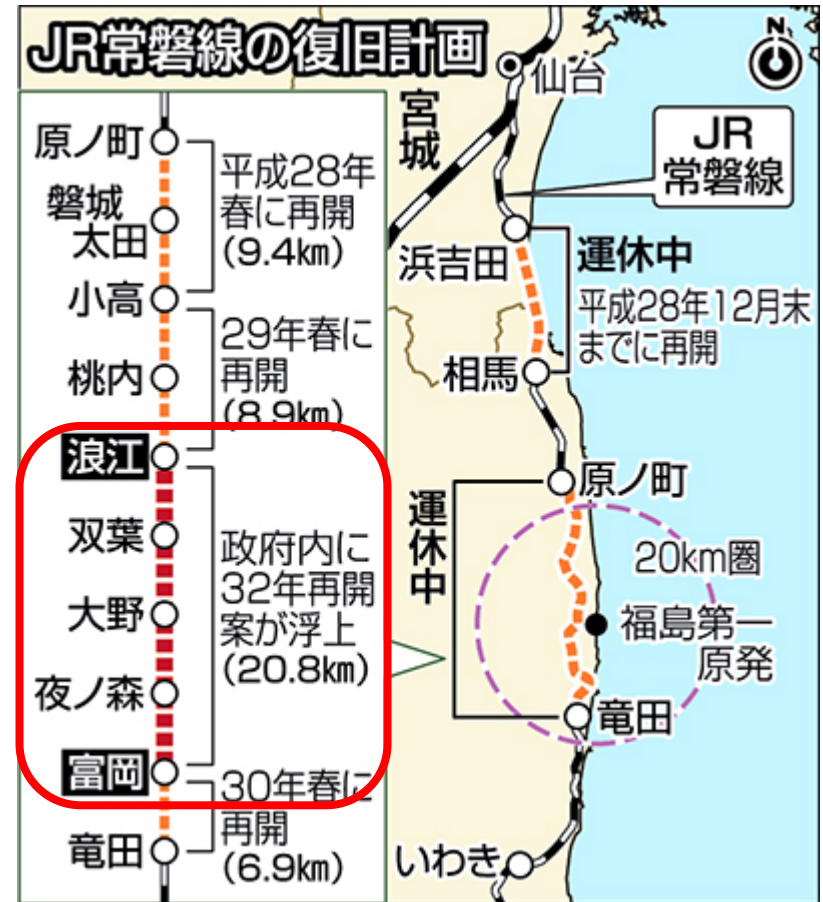


駅の改札口から見たプラットフォームと、その向こうの海（太平洋）
「富岡町での津波の高さは最大で21メートル」

（新聞掲載の記事より）

2日目（平成31年3月24日 日曜日）： JR富岡駅（福島県双葉郡富岡町）②

①



駅構内のJR常磐（じょうばん）線路線図

富岡駅－浪江駅間は不通

→右の資料では、平成32＝令和2（2020）年に再開予定。

（福島民報「32年全線再開案 JR常磐線」より）

2日目（平成31年 3月24日 日曜日）： 千年希望の丘（宮城県岩沼市）①

①



沿岸部に広がる岩沼市は、その48%が津波で浸水して、市民150名が亡くなっている。その際に生じた瓦礫（がれき）を使用して築いた丘と植樹による「緑の堤防」をつないで、防潮と非難場所の役割を担うとともに、「震災の記憶と人々の想い」を後世に伝えていくモニュメントになっている。

②

震災の記憶がつまった“ガレキ”

"Rubble" of Memory of the

震災により生じたガレキは、もともとは、家屋の基礎となっていたものです。私たちは、人々の思いがつまったガレキを廃棄せずに活用し、千年希望の丘を造っていきます。
The original rubble of earthquake will become the foundation of these houses.
We will make "Millennium hope hills" by using that rubble without discarding any.

2日目（平成31年 3月24日 日曜日）： 千年希望の丘（宮城県岩沼市）②

① 津波の高さ（8m）を示す掲示板



② 第1号丘（11m）から見た第2号丘



その第1号丘に登って、「**古墳（円墳）みたいだ**」と感じた。**大王や豪族の権力や権威のシンボルではなく、名も無き人々の「記憶や思い」のシンボル**としての。交流センター近くにあった説明パネルの1つに、次のように書いてあった。
「震災により生じたガレキは、もともとは家屋の基礎となっていたものです。私たちは、人々の思いが詰まったガレキを廃棄せずに活用し、千年希望の丘を造っていきます」。

2日目（平成31年 3月24日 日曜日）： 千年希望の丘（宮城県岩沼市）③

① 現在の様子と被災前の様子（右のイラスト）



② 現在の様子と被災前の様子（下のイラスト）

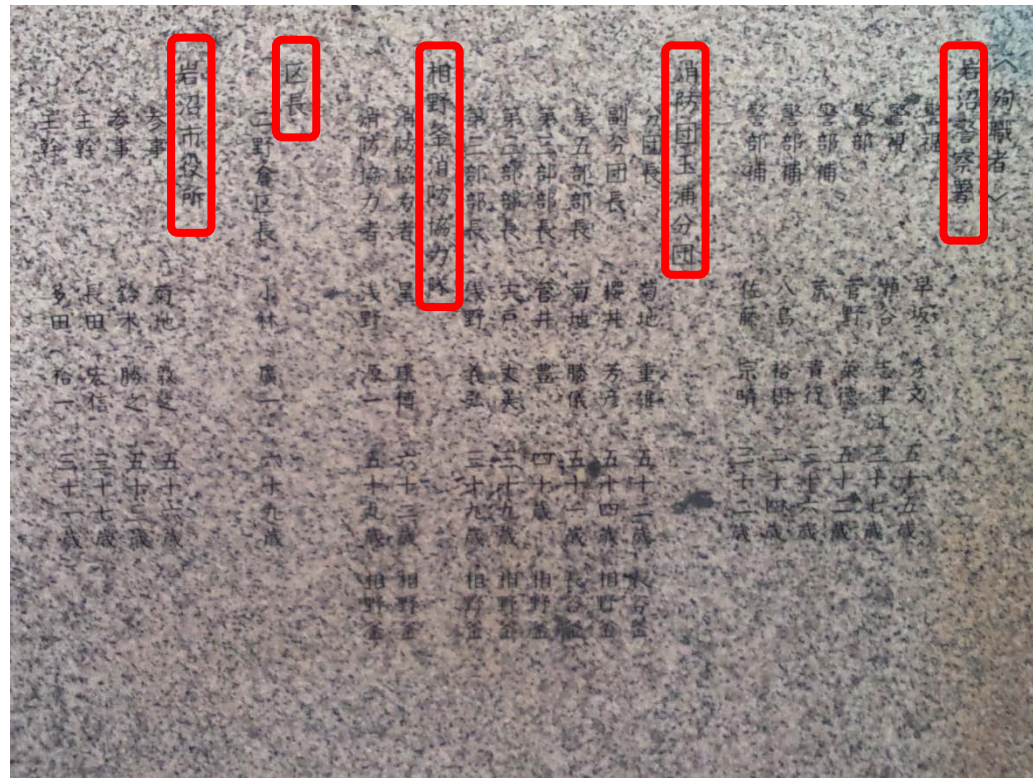


2日目（平成31年 3月24日 日曜日）： 千年希望の丘（宮城県岩沼市）④

① 岩沼市東日本大震災
慰霊碑の塔



② 慰霊碑の一部（殉職者）



慰霊碑には、
岩沼警察署、
消防団玉浦分団、
相野釜消防協力隊、区長、
岩沼市役所の方々のお名前が、
「**殉職者**」として刻まれていた。

3日目（平成31年 3月25日 月曜日）： 閑上（ゆりあげ）（宮城県名取市）①

① 津波の前と後の閑上
（ナショナルジオグラフィックHPより）



② 閑上地区の位置（「閑上震災を伝える会」より）



ここでは津波により、
800人に近い人々が

犠牲になっていて、「閑上震災を伝える会」会誌には、

**「ほかの被災地域と比べても、突出」、
「実に、6人に1人が犠牲に」と説明**
されている。

3日目（平成31年 3月25日 月曜日）： 閑上（ゆりあげ）（宮城県名取市）②

- ① 「お客様との『**再会**』を目指し、新たな一步を踏み出しています」
（名取市観光物産協会 公式HPより）



- ② 津波復興**祈念**資料館
「閑上の**記憶**」



閑上（ゆりあげ）さいかい市場を訪ねた後、
閑上朝市メイプル館横の**津波復興祈念資料館**
「**閑上の記憶**」に到着。

3日目（平成31年 3月25日 月曜日）： 閑上（ゆりあげ）（宮城県名取市）③

① 閑上中学校遺族会 慰霊碑の言葉（「閑上震災を伝える会」より）

② 14人の名前を刻んだ慰霊碑

閑上中学校遺族会 慰霊碑

2011年3月11日の東日本大震災、地震による津波で閑上中学校では14名の生徒が犠牲となりました。

その翌年、子ども達が生きてきた証を残すため、閑上中学校遺族会は亡くなった14名の子ども達の慰霊碑を旧閑上中学校正門前に建立しました。

「親が死んでも、語る人がいなくなっても、14人の子ども達がこの世に生きていた事を忘れないでいてほしい。そして、刻まれた名前に触れてほしい。決して冷たい石ではなく、たくさん触って、名前の角がなくなるぐらいに触って、いつも温かい慰霊碑にしていきたい、そのぬくもりが慰霊碑や先に逝った子どもたちに届きますように。」

そんなご遺族の気持ちが込められています。



資料館のシアターでは、**閑上中学校の屋上から撮影された津波の動画（中学生が撮影）**や、**亡くなった14人の中学生の慰霊碑の話、閑上中学校遺族会の活動の紹介**などのビデオを視聴した。

3日目（平成31年 3月25日 月曜日）： 閉上（ゆりあげ）（宮城県名取市）④

- ① お話をうかがった「語り部」の方
（館長の小齋正義さん 「閉上震災を伝える会」より）



- ② 子ども達が作った記憶の再現模型
（ブルーシートに「いたい」の文字。遺体のこと とちぎユープ HPより）

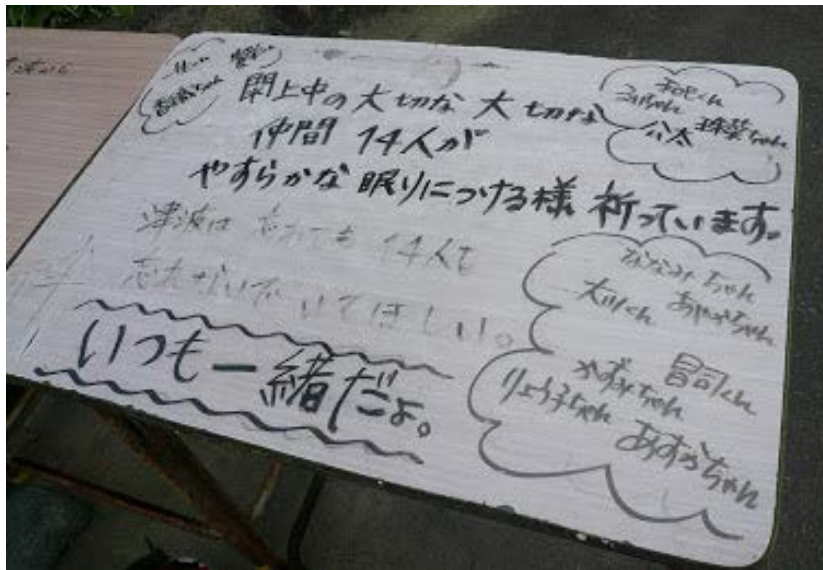
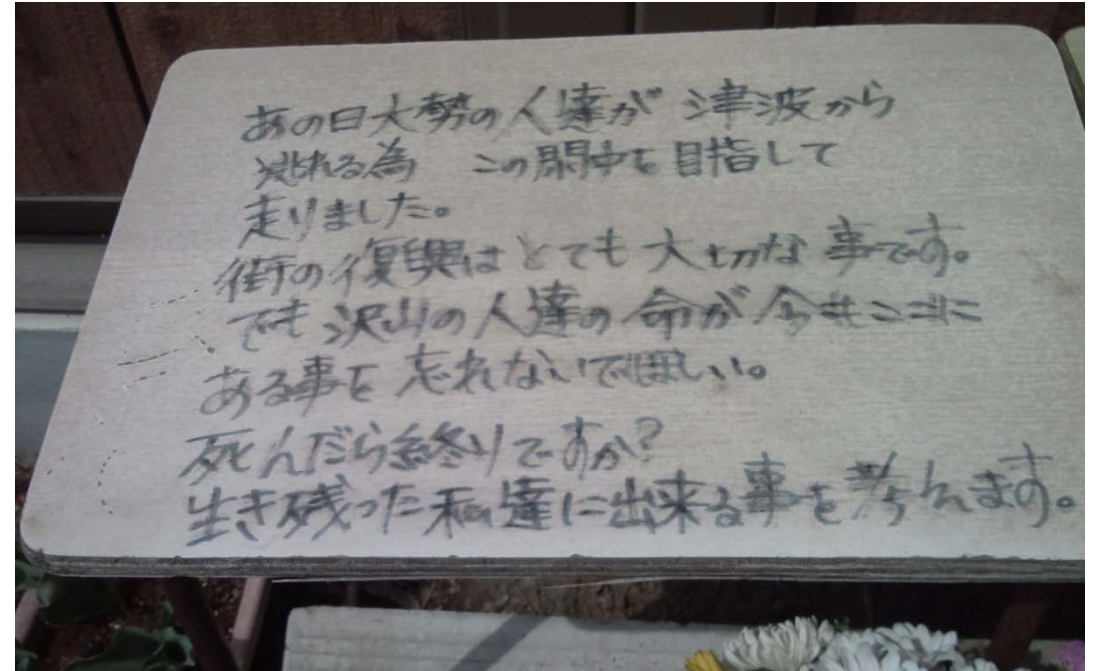


館長の小齋（こさい）さんから、体験談や子ども達の心のケアについての話を聴かせてもらった。
「中学校に避難した人達が、津波が来てパニックになって、階段を登ろうとする人を引きずり下ろしてでも自分が逃げようとしていた」という話も。

「ここに子ども達を連れてきてくれる先生達も、たくさんいますよ。とても、うれしいことです」と笑顔で応えてくれた。

最後に…。

- ① 津波復興祈念資料館「閉上の記憶」の前に置かれていた閉上中学校で使用されていた机と、それに記された亡くなった14名の生徒たちへのメッセージ。
この**3月11日は卒業式だったので、いつもより早く下校した中学生（卒業生は3名）が津波の犠牲になった。受験した高校の合格発表も、見る事ができなかった。**（宮城県復興応援ブログ「ココリス」より）



- ② 「街の復興はとても大切なことです。でも、たくさんの人達の命が、今もここにあることを忘れないでほしい。**死んだら終わりですか？生き残った私たちにできることを考えます**」